

柵の木からの手紙

2022年 弥生 3月号



- 3日： 新月 :旧 2月 1日
- 5日： 啓蟄
- 11日： 東日本大震災
- 18日： 満月 :旧 2月16日
- 21日： 春分

1945年3月10日。日本本土空襲を一日でも遅らせる為に硫黄島に米軍が上陸してからもゲリラ的に死守していた人たちがいた。そして、10日夜の東京大空襲。3月26日からの沖縄戦へと続いて行く。今では、語り継ぐ人も少なくなっているのだろうが、私が小学校低学年の頃には、正月のお寺参りに家族で出かけると参道に屋台出店が建ち並び、少し離れた所で戦争の傷病兵の方たちが空き缶を前にして莫塵を敷いて座っている姿を恐る恐る見ていた記憶がある。今でこそ日本は、平和ボケと言われるほどだが世界へ目を向けると各地で紛争・戦争が起きている。

平和の祭典、北京オリンピックでチベット問題によるボイコットが行われたが、オリンピックの陰に隠れてしまった。勃発から1年経過したミャンマーの紛争も影を潜めてしまった。報道は、専らロシア・ウクライナ戦争。侵攻した国、守る国、これだけで善悪がイメージされるのが常。そして報道。洗脳の為の報道、大きな報道の陰に隠れて進行する重大事項。

国は戦争を行って人々を苦しめているが、国家間の人々の多くは幸せな日常を望み憎しみ合っている訳ではない。国内での反戦デモは、力で抑圧される。

社会主義と資本主義国家。ロシアとウクライナの戦争の裏で戦っているのは結局これ。そして究極は、世界の一握りの裕福な人たちが繰り広げるお遊び。何の罪もない人々が涙する陰で笑っている人がいる。

遺伝子組換え、ゲノム編集、コロナも然り、戦争と形式が違うだけ。

そんな日常の中でも、季節は巡り春の気配を感じる事も多くなりました。空の色、鳥たちの動き、風、陽射し…。幸せな日常を守るために今年も、出来る方法で工夫しながら作業を開始しています。

14年間サラリーマンをしていた私が何故農業に転向できたか？

それは、闘う者も涙する者も、多くの命が食べなくては生きられない事に気が付いたから。